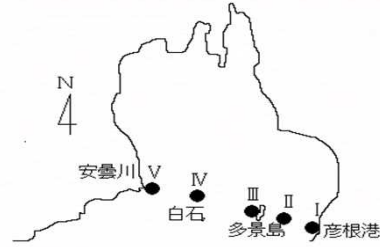


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年12月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和4年12月12日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

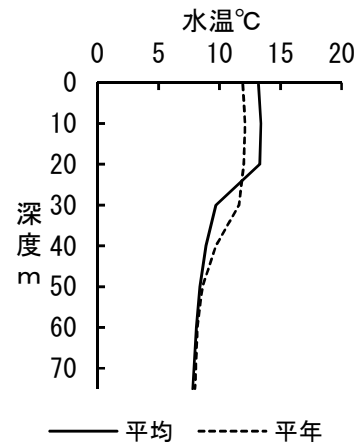
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 12月平均値 8.3m 平年値 7.3m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	12月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	13.2	11.9	+1.3
10	13.4	12.1	+1.3
20	13.3	12.0	+1.3
30	9.7	11.6	-1.9
40	8.9	9.7	-0.8
50	8.4	8.6	-0.2
60	8.1	8.2	-0.1
75	7.8	8.0	-0.2



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
11月下旬	15.8	13.7	+2.1
12月上旬	13.3	12.2	+1.1
12月中旬	11.1	10.7	+0.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	12月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	9.1	9.2	-0.1
10~20	4.2	3.6	+0.6
20~40	1.8	2.7	-0.9
40~75	0.2	0.8	-0.6

(プランクトンネットNXX14使用)

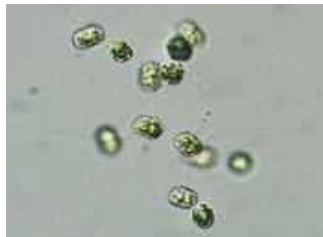
5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、全ての地点で*Cosmocladium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)が細胞数で多く認められたほか、地点3~5で*Aulacoseira granulata*(アウラコセイラ:珪藻)が、地点4では*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)もそれぞれ細胞数で多く認められた。

動物プランクトンは全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数密度で多く認められたほか、地点2~5では

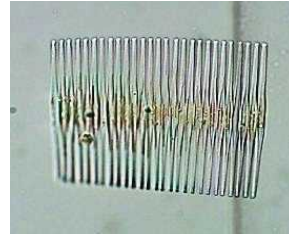
Raphidiophrys sp.(ラフィディオフリス属:太陽虫)も個体数密度で多く認められた。



Cosmocradium constrictum



Aulacoseira granulata



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生



Raphidiophrys sp.

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	12月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.2	100.7	10.2	97.6	0.0	(+3.1)
10	10.1	99.7	10.1	96.8	0.0	(+2.9)
20	10.0	98.4	10.0	95.9	0.0	(+2.5)
30	7.8	70.5	9.4	90.1	-1.6	(-19.6)
75	4.2	36.4	4.0	35.0	0.2	(+1.4)